

## 基本方針Ⅰ いわきの「ちから」を ささえる

生涯学習の場として利用されている施設などを、より利用しやすくします。また、生涯学習の指導者に関する人材の情報を集めるなど、市民が知りたい情報をより分かりやすく提供し共有することで、新たな「ちから」を生むことを目指します。

### 施策の方向性1 「ひとづくり」「まちづくり」を支える学びの場の整備と活用

#### 「現状と課題」 基本構想（学習条件の整備）2 学習施設の整備と充実

地域にとって最も身近な施設であるべき公民館の利用者が固定化している。

地域の子どもや孤立した生活弱者、「まちづくり」を担う意欲のある人など、誰もが気軽に立ち寄る地域住民の居場所、話し合いの場となっていない。

市民と行政が知恵を出し合いながら、学習施設等の管理運営方法を時代やニーズの変化を踏まえて見直し、市民相互の支え合いにより施設の有効活用を進めることが必要。

子どもを始め地域住民が気軽に立ち寄れる居場所を確保し、さらに「まちづくり」に向けた活動交流拠点を整備することが必要。



### 施策の方向性2 学習情報の共有と相談体制の整備

#### 「現状と課題」 基本構想（学習条件の整備）3 学習情報の提供、相談体制の充実

情報格差により、生涯を通して学ぶ人とそうでない人とに二分化しつつある。

行政、民間を含め様々な情報が溢れ、窓口もはっきりしないために適切に取捨選択するのが難しい。

情報活用環境の利便性・快適性を高めると共に、市民の情報活用能力を高めることが必要。

市内の多彩な学習情報を、市民自らが取捨選択し、総合的・体系的・効率的に利用できるようにすることが必要。



### 施策の方向性3 生涯学習支援者・支援団体の育成・活用

#### 「現状と課題」 基本構想（学習条件の整備）4 指導者の養成と活用

地域課題を自ら解決していくため、リーダーとなって活躍する人やサポートしていく人を、うまく活用できていない。

市民が学習活動や職業などを通じて身につけた学習成果を生かすなど、地域の人材として様々な能力や希望に合った活躍ができる場を確保することが必要。





## 「ひとづくり」「まちづくり」を支える学びの場の整備と活用

市民一人ひとりが自分に適した学習活動を見つけ、実践できる拠点となる社会教育施設等の利便性向上を市民との協働により進めることで「まちづくり」の中で学習成果を発揮できるようにします。

### 施策の柱

#### ① 地域住民が気軽に立ち寄れる居場所の確保・学習拠点・活動交流拠点づくり

身近な地域において子ども、青少年、大人の様々な学び合いや学習活動を促進すると共に、地域住民の居場所づくりに向けた施設の活用等、誰もが集える生涯学習の拠点づくりを地域住民と協働して進めます。

#### 具体的手段

- 地域住民が集いやすい施設の開放促進
- 子どもや子育て親子が気軽に利用できる交流の場の設置
- 高齢者に対するレクリエーション等の場の提供

#### ② 生涯学習に親しめる場の拡充

生涯学習に利用できる学校の空き教室や集会所の有効活用を進めると共に、アウトリーチ活動を通して市民が取り組みやすい生涯学習の機会の充実を図ります。

#### 具体的手段

- 生涯学習に利用できる場所の拡充
- アウトリーチ事業の充実

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
地域の活動などに積極的に参加しましょう。

地域  
地域活動も生涯学習の一つと位置づけましょう。

行政  
人々をつなぐ仕組みをつくれます。

この施策の目指す5年後のまちの姿



広範な世代・多様な文化を持つ市民が一体となって「ひとづくり」「まちづくり」のために活動できる交流拠点があるまち





## 学習情報の共有と相談体制の整備

市や公共施設の窓口やインターネットなど、様々な学習情報が手に入る仕組みづくりを進めます。そのため、情報活用環境の利便性・快適性を高めると共に、相談に適切に対応できる体制を整備します。

### 施策の柱

#### ① 新たな学習やまちづくり活動のきっかけとなる学習情報提供・共有化

市民それぞれのライフステージを把握した上で、効率的な学習情報提供や共有に努め、広報誌やインターネットと連動した生涯学習の情報発信により、新たな学習やまちづくり活動に取り組むきっかけづくりを推進します。

#### 具体的手段

- 市民生活に関わりのある広報冊子等の発行
- ITを活用した生涯学習情報システムの整備
- 生涯学習関連広報冊子の充実

#### ② 専門職員による相談支援体制の充実

地域の総合的な窓口として、市民の学習ニーズに対して適切な学習支援を行う「生涯学習指導者」の配置等により、市民が最も適した学習機会を選択できるようにします。

#### 具体的手段

- 生涯学習に関する相談窓口の充実
- 生活課題解決支援機能の充実
- 学校と地域の橋渡し機能の充実

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
学ぶきっかけをつ  
かみましよう。

地域  
情報を共有しまし  
よう。

行政  
活用しやすい情報  
や相談窓口の仕組  
みをつくります。

この施策の目指す5年後のまちの姿



生涯学習のきっかけをつかんだり、自分に適した学習活動を通して、生活課題や身近な地域の課題を見つめられる環境が整備されているまち





## 生涯学習支援者・支援団体の育成・活用

生涯学習支援者・支援団体の育成や発掘・活躍支援などにより、個人の情熱や能力が発揮され、「まちづくり」の主体となる「ひとづくり」を通じて市民活動が活性化される体制を整備します。

### 施策の柱

#### ① 実践的な生涯学習の人材・団体の育成・活用

多彩な生涯学習の講師・支援者が地域の人材として様々な能力や希望に合った活躍ができるよう、地域人材の発掘と育成、情報の共有、交流の機会の設定を支援し、生涯学習に関する人材を活用する事業の活性化を推進します。

#### 具体的手段

- 学習支援者による講座の企画や場の設定の支援
- 地域の人材が地域で活躍できる環境の整備

#### ② まちづくり団体や学びの成果を生かしたサークル等の効果的な支援

まちづくり団体やサークルが行う学習事業等への補助等の意義・効果についてのあり方を検討し、生涯学習を通じたコミュニティ関連組織の育成を促すことで、学習支援の関係づくりやまちづくりへのはたらきかけを推進します。

#### 具体的手段

- 生涯学習やまちづくりに関する団体の活動に対する支援

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
地域の一員である  
と自覚しましょう。

地域  
人材を発掘し、後継  
者を育成しましょ  
う。

行政  
人々をつなぐ学習  
支援者を育成しま  
う。

この施策の目指す5年後のまちの姿



学習成果や個人のスキルを可能な限り役立てられる環境が整備されることで、生涯学習や、まちづくりの支援者や支援団体の育成が促進されているまち



## 基本方針Ⅱ いわきの「ちから」を はぐくむ

多様化する社会を、生き抜くための「ちから」をつくり、育むことや、市民一人ひとりがつながりの中で生きていくと実感できるよう、人や地域とつながる「ちから」の育成を目指します。

### 施策の方向性4 生涯にわたって学べる環境の整備

「現状と課題」 基本構想（学習機会の整備）1 生涯各時期に応じた学習機会の充実



多くの講座は、平日の日中に開催されているため、仕事や家事の都合により、参加が難しい人も少なくない。

全ての人に条件を問わず学びの機会が保障され、学びの好機を逃さず相互に影響を与え合うことで、知識の共有、継承が自由に行われ、学び直しが可能な環境が整備されていることが必要。

### 施策の方向性5 社会の変化に対応できる学習機会の充実

「現状と課題」 基本構想（学習機会の整備）2 生活課題に関する学習の推進



少子高齢や情報化・グローバル化社会への移行など、急激に社会が変化する中、行き過ぎた個人主義や人間関係の希薄化などが課題となっており、社会の信頼関係の低下が懸念される。

生活の中での気づきに応じた学びの場が提供され、市民一人ひとりが学習することにより急激な社会環境に対応する力を身につけ、安心・安全で豊かな人生を送る学習の機会が整備されていることが必要。

### 施策の方向性6 多文化共生社会に向けての学習の推進

「現状と課題」 基本構想  
(学習機会の整備) 7 地球環境問題への取組 (学習機会の整備) 8 健康・スポーツへの取組  
(学習機会の整備) 9 文化の振興 (学習機会の整備) 10 国際化への対応



趣味や教養を充実させるため、様々な講座が開催されているが、参加者の固定化や減少が見られる。

多様な文化や価値観を持った人々との交流により、異文化を尊重する気持ちを醸成し、市民一人ひとりが、学習という「知力の創造」により、物事に対し主体的に関わり、自己と周囲を変えていく力を身につけられる教育活動が支援されていることが必要。



## 生涯にわたって学べる環境の整備

市民の地域社会への参加に対応した新たな学習メニューの開発やイベントなどの企画により、幼年期から高齢期までの広範な世代が偏りなく学ぶ機会の提供をします。

### 施策の柱

#### ① ライフステージに応じた学びの機会の充実

若い世代や現役世代のニーズを把握しながら、単身者や会社勤めの方も参加しやすい環境を整え、学習機会を拡充することで、大人の様々な学び合いが促進されるよう自主的な生涯学習事業を支援します。また、趣味・文化・スポーツなど多様な活動に触れ、人々と交流し合いながら生き生きと暮らすために、多様な関係機関との連携を図り、多様な学習ニーズに応えることのできる学習機会の提供を目指します。

#### 具体的手段

- 講座に関する満足度や改善要望の把握による既存講座の充実
- 若い世代や会社勤めの方が参加しやすい学びの機会の充実
- 幅広い世代が参加しやすい学びの機会の充実

#### ② 学ぶにあたってサポートを必要とする方が参加しやすい学びの機会の充実

乳幼児の保護者や、外国人の方を始めハンディキャップのある方が学習活動に参加できるよう、利用者やボランティアによる支え合いにより、支援サービスを促進します。

#### 具体的手段

- 託児つき講座やハンディキャップのある方に向けた受講環境の整備
- 学習成果を生かしたボランティア・協力者の活用による学習環境の向上

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
学習活動に積極的に参加しましょう。

地域  
事業を実施、または支援しましょう。

行政  
市民が学びやすい学習機会を提供します。

この施策の目指す5年後のまちの姿



学び直しが可能な環境を整備されていることで、誰もが学びを通じて地域社会に参画でき、知識の共有、継承が自由に行われ、生きがいを感じられるまち





## 社会の変化に対応できる学習機会の充実

暮らしや人生の課題を市民一人ひとりが主体となって解決していくために、可能な限り自分に合った方法で学習していけるよう、時代や社会環境の変化に対応した学習支援を充実させます。

### 施策

#### ① 家庭の教育力向上のための学習活動の支援

家庭や身近な地域での子育てを学び合う仕組みづくりから、家庭と地域の教育力の向上を図ることができる学習機会の提供を目指します。

#### 具体的手段

- 子どもをより良く育てるための学びの機会の充実

#### ② 現代的な課題に対応し生活力を向上させる学びの機会の充実

生活する上での基礎的な知識の習得だけでなく、それを活用する力や実体験によって備わる力、安心・安全な生活に欠かせない知恵など、社会で生き抜く力を身に付けることができる学習機会の提供を目指します。また、少子化による超高齢社会の訪れや、情報化・グローバル化社会への移行など現代的課題についての学習機会の提供を目指します。

#### 具体的手段

- 安全・安心な生活に対応する学びの機会の充実
- 防災・減災のための学びの機会の充実
- 困難な社会状況に対応する学びの機会の充実

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
自分磨きを続けま  
しょう。

地域  
自ら学ぶ人とつな  
がりましょう。

行政  
市民が必要とする  
学習機会を提供し  
ます。

この施策の目指す5年後のまちの姿



生活の中での気づきに応じた学びの場が提供され、市民、一人ひとりが学習することにより急激な環境の変化に対応する力を身に付け、安心・安全で豊かな人生を送る学びの機会が充実しているまち





## 多文化共生社会に向けての学習の推進

すべての市民が生涯を通じて学び、自己を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、充実した多様な学びの機会を提供し、市民の主体的な学びを支えていくことで多様な価値観や異文化を尊重する気持ちの醸成を進めます。

### 施策の柱

#### ① 生涯スポーツ・文化・芸術に関する学びの機会の充実

誰もがスポーツに親しむことができるよう、気軽に参加できる機会を増やし、様々な年齢層でスポーツ人口が増やせるようにします。また、主体的な文化活動の場の確保や支援を充実させることで、人間的なつながりや他の人が持つ良さに触れる機会の充実を図り、心の復興を目指します。

#### 具体的手段

- 生涯スポーツ健康活動の推進
- 主体的な創造・文化活動の充実

#### ② 共生社会に向けた学びの機会の充実

人権・平和・男女平等・生命尊重、また、外国人への学習支援など交流の機会などを通して外国人への日本語習得支援などの充実、さらに自然は未来からの預かり物という意識を醸成するための学習機会など、全ての人々が共に生きていける共生社会のための学びの機会の充実を目指します。

#### 具体的手段

- 人権、平和、男女平等、環境保全、国際理解教育や異文化交流活動などの学習機会の提供

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
地域の一員として  
地域の行事などに  
参加しましょう。

地域  
地域への関心を高  
める取組みを進め  
ましょう。

行政  
市民が様々な学び  
に出合える場・機会  
をつくれます。

この施策の目指す5年後のまちの姿

多様な文化や価値観を持った人々との交流により、異文化を尊重する気持ちを醸成し、市民一人ひとりが、学習という「知力の創造」により、物事に対し主体的に関わり、自己と周囲を変えていく力を身に付けることができる教育活動が支援されているまち





## 基本方針Ⅲ いわきの「ちから」を **いかす**

学びにより育まれた「ちから」を外に向かって発表・発信することで次のステップへ進めることを目指します。また、それを地域社会へ生かすことで、「ひとづくり」「まちづくり」につなげることを目指します。



### 施策の方向性7 **ふるさと教育の推進**

「現状と課題」 基本構想（学習機会の整備）4 コミュニティづくり、地域づくり活動の促進

少子高齢化と合わせ、東日本大震災の折に見られた隣近所での助け合い・支え合いが大きな教訓となり、安心・安全な地域づくりは欠かせないものとなってきている。

地域で学び・地域を学ぶ・地域の人に学ぶ機会を通して、まちづくりに向けて活動するきっかけづくりの取り組みが行われていることが必要。

### 施策の方向性8 **学びの実践の場としてのボランティア活動の推進**

「現状と課題」 基本構想（学習機会の整備）5 ボランティア活動の促進



住民やその地域が備えていた共助の役割を、行政がサービスの充実の名によって担ってきたため、結果として地域のコミュニティ機能が失われ、地域の中の課題を解決する力も弱くなっている。

市民一人ひとりが地域への貢献を実感することにより自らの存在意義を感じ、より良く生きることができる教育活動が支援されていることが必要。

### 施策の方向性9 **市民のキャリア形成の支援**

「現状と課題」 基本構想（学習機会の整備）6 企業における生涯学習の奨励



将来に対して希望の持てない人が増えると、社会不安につながるおそれがあるため、子どものころから多様な職業に就く人と接する機会の充実等を図り、より望ましい職業観を育てるべきである。

人づくり、地域づくりの輪を広げるため企業による家庭教育支援や青少年育成などへの取組みを促し、地域を支える全ての主体で未来志向の創造的な復興を目指せる環境が整備されていることが必要。



## ふるさと教育の推進

生活の基盤となる地域で、生き生きと暮らすために、市民一人ひとりが身近な地域に目を向け、地域が抱えるニーズや課題に対応できるよう、協働してまちづくりのために学ぶ機会の提供を進めます。

### 施策の柱

#### ① 地域への関心を高める学びの機会の充実

市民一人ひとりが自らの住む地域を理解し、誇りに思う意識を醸成することで、より良いまちを創りたいとすることができる学習機会の提供を目指します。

#### 具体的手段

- 本市の自然、歴史や伝統文化、産業について理解を深める学習機会の提供

#### ② まちづくりへの関心を高め、まちづくり活動を促す学びの機会の充実

身近な地域の生活環境を考え行動する意識づくりにより、魅力あるまちづくりを推進していくための学習機会の提供を目指します。また、まちづくりに参画できる環境づくり、身近な地域における学習支援の関係づくりのための学習機会の提供を目指します。

#### 具体的手段

- 本市のまちづくりについて理解し、関心を持つための学習機会の提供
- 市民協働のまちづくりについて関心を持ち、活動を促す学習機会の提供

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

#### 市民

自分が暮らすまちへの関心を高めましょう。

#### 地域

地域資源を掘り起こし、自慢を増やしましょう。

#### 行政

地域に伝わる自然・伝統文化などを伝えていきます。

この施策の目指す5年後のまちの姿



地域で学び・地域を学ぶ・地域の人に学ぶ機会を通して、「まちづくり」に向けて活動するきっかけづくりの取組みが行われているまち





## 学びの実践の場としてのボランティア活動の推進

子どもから高齢者まで、地域の誰もがボランティアに自主的に取り組む姿勢を持ち、年齢、興味・関心、技能に応じて具体的なボランティア活動に関われるよう、ボランティアに関する情報の共有や体系的な学習プログラムを関係機関と連携しつつ充実させます。

### 施策の柱

#### ① 地域ボランティアの育成のための環境整備

地域住民の生活課題などの解決に向けた自分の取り組みを発表する機会の提供や、子どもが他者と関わる体験を深めることで、ボランティアについて興味・関心を持ち活動ができるよう支援します。また、学習成果により地域社会を支える地域ボランティアの育成とボランティア人材の活用を図るために、関係機関や団体との情報共有及び連携を図ります。

#### 具体的手段

- ボランティア活動の奨励
- 実践的な学習の成果活用のための仕組みづくり

#### ② 地域ぐるみの子育て支援環境づくり

子育て中の親だけでなく、世代を超えた多様な市民が共に学び交流し相互支援的な関係が地域に生まれ、活動ができるよう家庭教育支援の地域協力者の拡大を関係機関と相互連携を図りながら進めます。また、小・中学校におけるゲスト・ティーチャーや学校支援ボランティア等の積極的な活用を支援するため、地域人材情報の収集・提供や地域団体等への協力要請などを行い、多様なボランティアの育成を行います。

#### 具体的手段

- 家庭教育支援者の育成
- 学校支援ボランティア等の確保・育成

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
自分たちのまちは自分たちでつくる意識を高めましょう。

地域  
自分たちのまちをつくるために行動しましょう。

行政  
市民の自発的な「まちづくり」活動を応援します。

この施策の目指す5年後のまちの姿



学びを通して、世代を超えた市民が交流し、自分たちの課題解決をボランティア活動を通して市民相互の支え合いの中で実現しているまち





## 市民のキャリア形成の支援

本市が大震災からの復旧、復興から、未来志向の創造的自立へと向かうため、地域社会を支える様々な関係機関が協働し、地域の人材として活躍できるよう市民ひとり一人のキャリア形成を推進することで市民全体で「新しい公共」の担い手をつくる社会の実現を目指します。

### 施策の柱

#### ① 職業観やチャレンジ精神を育む学びの機会の提供

将来の職業や生き方についての自覚を促すため、社会貢献活動を通じた大学、企業や商店街の店舗などと連携して、子どものころから地域の職業人等との交流、職場体験などの学びの機会を充実することで、自分の夢を持ち、それに向かってチャレンジし、国際社会でも必要とされる人材を育成します。

#### 具体的手段

- 子どもの個性や主体性を育む体験活動の推進
- 職業生活に関わる現代的課題についての学習機会の提供

#### ② 地域社会に参画することで「出番」を創出する学びの機会の提供

地域における、生きがいにつながる交流の機会を充実させます。また、青年層・現役世代・シニア世代が自らの体験や能力を生かし、地域の人材として活躍ができるきっかけとなる活動を支援することで、全ての人に「居場所」と「出番」がある、全員参加で「新しい公共」の担い手となる社会の実現を目指します。

#### 具体的手段

- 地域住民同士の学びと交流の機会の提供
- 自らの体験や能力を生かせる学習活動への支援

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

#### 市民

先人の足跡を踏まえ地域の未来像を描きましょう。

#### 地域

多くの人々の協働により地域の未来像を描きましょう。

#### 行政

市の将来を見据えた上で、地域の未来像を描きます。

### この施策の目指す5年後のまちの姿



未来志向の創造的な復興を目指すため、地域社会を支える全ての主体の協働により市民のキャリア形成が支援され、「ひとづくり」が行われているまち



## 基本方針Ⅳ いわきの「ちから」を むすぶ

個人が育んできた「ちから」が、様々な人との交流などを通じて効果的に結び付くと新たな「ちから」が生まれます。学びによって培われた「ちから」をつなぐ体制を整備することで、「ひとづくり」「まちづくり」につなげることを目指します。

### 施策の方向性 10 学習活動のネットワーク化による地域の教育力の向上



#### 「現状と課題」 基本構想（学習機会の整備）3 家庭・学校・社会教育の充実と連携

核家族化、地域住民の連帯感の希薄化、少子高齢化の進行、価値観の多様化などを背景に、児童虐待やいじめ、保護者による過保護あるいは放任など、地域の教育力の低下が憂慮される。

子どもや学校が抱える課題の解決に向けて各関係機関や地域住民と協働して、地域全体で子どもを育成することに取組まれていることが必要。

#### 基本構想（学習条件の整備）4 指導者の養成と活用（生涯学習指導者のネットワーク化）

リーダーとなって活躍する人や、サポートしていく人達が、集い、学び合える機会が少ない。

地域の住民同士をつなげるようなコーディネーター役となる指導者の養成や交流促進、役割の明確化を図り、地域住民の効果的な学習を支援する仕組みが必要。

### 施策の方向性 11 生涯学習と「まちづくり」の循環の仕組みを支える基盤の整備

#### 「現状と課題」 基本構想（学習条件の整備）1 生涯学習推進体制の整備



横の連携がないため、市民一人ひとりが目的に応じて体系立てて学習することができていない。

市民が学習活動を通して、集い交流し合う中で、市民と行政の協働で、「人づくり」「まちづくり」を考え、自然と参画する「生涯学習とまちづくり連鎖によるネットワーク」の環境を整備することが必要。

計画や事業を打ち上げただけで、自己完結に終わってしまっている傾向にある。

計画や事業の実施にあたって、外部の意見を聞く機会を設け、客観的に評価をもらうことで、細かく軌道修正しながら改善していく体制を整備することが必要。



## 学習活動のネットワーク化による地域の教育力の向上

東日本大震災を契機に、生涯学習が担う人と人の絆、地域の絆づくりによる地域コミュニティの再構築に向けた役割が見直される中、核となる人材の育成・ネットワーク化を図り、家庭、学校、地域団体、行政（公民館）、企業などが協働し、地域全体での教育力の向上に取り組めます。

### 施策の柱

#### ① 様々な人や機関をつなぐ核となる人材のネットワーク形成の推進

様々な地域課題と市民の多様な学習ニーズを効果的に結び付け、市民の生涯学習がより効果的に行われるように、人や機関を結び付けることができる人材の育成、スキルアップを図り、地域教育コミュニティの活性化を図ります。また、それぞれ異なる領域で活動する団体間の交流の機会を設けることで、分野ごとの学習指導者同士のネットワーク化、資質向上を図り、「新しい公共」を育むための取組みを進めます。

#### 具体的手段

- 生涯学習指導者等の役割の強化と人材育成
- 関係団体、学習指導者のネットワーク化

#### ② 学校・家庭・地域の協働による学習環境の整備

地域の関係機関が相互の信頼のもと、協働して教育に関わることで子どもの可能性を広げるために、地域ぐるみで子育てを進める環境を創出するための仕組みづくりを進めます。

#### 具体的手段

- 学校教育・家庭教育・社会教育の連携の推進

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
大人と子どもが互いに顔の見える関係を育みましょう。

地域  
人と人のつながりを育み、地域で子どもを育てましょう。

行政  
市民間のネットワークにより地域の基盤を整備します。

この施策の目指す5年後のまちの姿



子どもや学校が抱える課題の解決に向けて指導者が、つなぐ役割を果たすことで地域住民と協働して、地域全体で子どもを育成することに取り組まれ、豊かな地域づくりが行われているまち





## 「生涯学習」と「まちづくり」の循環の仕組みを支える基盤の整備

市民が主体的な学習活動を通して、集い交流し合う中で、まちづくりを考え、参画することによる「生涯学習」と「まちづくり」の循環の仕組みの構築のために、市民・企業・教育機関・行政などがそれぞれの役割や責任を分担していける関係づくりを目指します。

### 施策の柱

#### ① 各関係機関が協働して生涯学習を推進する体制の整備促進

関係機関相互の連携をこれまで以上に緊密にし、関係機関や各地域において横断的に行われている施策の推進を図り、その地域の住民とどう協働していくか、地域社会をどう創っていくかということを検討する組織の充実を図ります。

また、幅広い市民の理解と協力を得て市民協働による生涯学習の推進を図るために、施策の内容、実施方法等に関する透明性を確保します。そのために各関係団体等から選任された有識者が、学びの視点から「まちづくり」につながる全市的な生涯学習政策の進行管理を行い、多様な協働的関係の体制を構築します。

### 具体的手段

- 全市的な社会教育・生涯学習推進体制の充実
- 地域の社会教育・生涯学習推進体制の充実
- 地域の連携の推進
- 地域の多様な団体、人々との協働関係の構築

みんなの「ちから」を合わせて生涯学習を進めましょう！ ～それぞれの役割～

市民  
見えてくる課題を確認し共有しましょう。

地域  
方向性を確認し、共に学び、行動していきましょう。

行政  
協働のための方向性や課題を点検し、次につなげます。

この施策の目指す5年後のまちの姿



学ぶことと生かすことが結び付く「知の循環」の仕組みが形成され、様々な知識や経験が地域社会に蓄積されることで、まち全体が活気づき発展を続けているまち



## 6 実施計画に位置付ける取組み・事業の磨き上げ

基本計画で示した目標を具体的に進めていくために、様々な分野で行われている個々の取組みや事業を実施計画で位置づけ、それぞれの取組みや事業を実施する担当部署、関係機関・市民団体の協力を得ながら、毎年度とりまとめることで、その実施状況を把握します。

実施計画に位置付けた様々な取組み・事業については、多様な分野の有識者から構成されるいわき市生涯学習推進本部、いわき市社会教育委員の会議、公民館運営審議会に報告することで、様々な角度から意見や提案を受け、議論を図りながら、より良きものとしていきます。

さらに、これらの議論の場を通して関係団体同士の連携・協力や、市民と行政の協働を深め、位置付けた取組み・事業の磨き上げを図り、計画のより効果的な推進に努めます。

